

基礎ゼミナールの実践例

2010/02/17(水)
平成21年度 第2回FDセミナー
「学習指針としてのシラバスと初回授業」

林 祐司
大学教育センター 准教授
yhayashi@tmu.ac.jp

1

報告の柱

1. 基礎ゼミの目的の確認
2. 有効な基礎ゼミのために
3. シラバスと初回演習
4. 初回演習でいかに動機づけるか
5. まとめ

2

「基礎ゼミナール」の目的とは

- シラバスには・・・
 - 受動的学習姿勢から能動的学習姿勢への転換
 - 課題解決に必要な技法の体験的習得
 - 豊かな人間関係の形成
- KSAsのうち
 - × Knowledgeではなく、
 - ○ Skills、Attitudesの開発。

3

有効な研修とは

- 有効な研修(Noe & Colquitt, 2002)
 1. 目標、目的や期待される効果の理解
 2. 研修内容と研修後との関連の納得
 3. 他の参加者の観察
 4. 他の参加者からのフィードバック
 5. 練習機会の積極的利用……………等々。

4

シラバスと初回演習

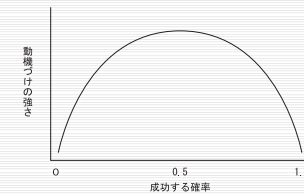
- シラバス → 1、2
- 初回演習 → 1、2、3、4、5
 - このゼミの目標と各回の目的 → 1、2
 - ロードマップの提示 → 2、5
 - 成績の付け方 → 4、5
 - 班分け → 3

- 4、5の行動をいかに動機づけるか？

5

動機付けとしてのロードマップ

- 細かく刻んで提示する理由
 - 目的や内容の理解(1、2)。
 - 段階を踏むことによる動機づけ(5)。



: Atkinson(1957)

6

動機付けとしての成績評価

- 成績の付け方を説明 → インセンティブ
- 個人での練習(5).
 - 基本は個人(フリーライディングの防止)。
 - プロセス(努力)とアウトカム(到達)。
 - 出席するだけでOKでも、突出した結果を要求するわけでもないバランス(参照:動機づけと成功確率)。
- チームワーク(4).
 - 班内で討議した結果による加点がありうる。

7

まとめ

- KSAsのうちSAsの開発が目的。
- Noe & Colquitt(2002)。
 - ↓
- シラバス&初回授業を構成。
 - 期待される成果の確認
 - ロードマップによる各回の目的の提示と動機づけ
 - 成績評価による動機づけ
 - 班分けによる他者との関係の仕込み

8

参考文献

- Atkinson, John W. (1957) "Motivational Determinants of Risk-Taking Behavior". *Psychological Review*, 64, pp.359-372.
- Noe, R. A., & Colquitt J. A. (2002). "Planning for training impact: Principles of training effectiveness". In K. Kraiger (Ed.), *Creating, implementing, and maintaining effective training and development: State-of-the-art lessons for practice*. San Francisco: Jossey-Bass, pp.53-79.

9

首都大学東京	基礎ゼミナール	科目種別	基礎教育科目	単位数	2	—																														
担当教員	林 祐司	前期	水曜日	4時限																																
①授業方針・テーマ	<p>【働くことを考える】</p> <p>わが国の雇用システムを特徴づけていた制度や慣行が様々な「改革」により組みかえられ、あるいは取り払われてきた。一連の「改革」は人々の働き方や生活の仕方に影響を与えている。一例を挙げれば、雇用の多様化は、ライフステージにあわせた働き方を人々に可能にしていると指摘される一方、少なからぬ人々から技能形成に満ちた仕事の機会を奪い、貧困や格差の遠因になっていると指摘される。この演習では、わが国の雇用システムについて自ら文献を集め、整理し、発表することをを行う。</p>																																			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>聞く・読む、調べる・整理する、発表する・表現するなど、大学における能動的学修の基本となるスキルを身につけることを目的とする。</p> <p>担当教員の専門領域が労働問題であることから演習の題材として労働問題を用いるが、労働問題はあくまで題材にすぎない。大学での学修の基本となる力を得ることが到達目標である。</p>																																			
③授業計画・内容	<p>昨年度の演習参加者は24名であった。今年度も同数の参加者が得られると仮定し、演習を次のとおり計画している。参加者が減少した場合や、進度を早めても差し障りないと判断した場合は計画を変更し、レポートの書き方についても扱おうと考えている。参加者には、そのような変更がありうることをあらかじめ了解されたい。</p> <p style="text-align: right;">1.2</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1)</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>2)</td><td>ノート・テイキングの技術、文献の読み方</td></tr> <tr><td>3)</td><td>読んできた文献の内容を議論、レジュメの書き方</td></tr> <tr><td>4)</td><td>お互いのレジュメの改善について議論する、報告テーマの決定</td></tr> <tr><td>5)</td><td>文献データベースの活用、引用の作法、図書館案内</td></tr> <tr><td>6)</td><td>報告のためのアウトラインを考える</td></tr> <tr><td>7)</td><td>報告のためのアウトラインを考える(続き)</td></tr> <tr><td>8)</td><td>口頭発表の仕方とパワーポイントで資料を作成する</td></tr> <tr><td>9)</td><td>口頭発表の仕方とパワーポイントで資料を作成する(続き)</td></tr> <tr><td>10)</td><td>(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・1</td></tr> <tr><td>11)</td><td>(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・2</td></tr> <tr><td>12)</td><td>(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・3</td></tr> <tr><td>13)</td><td>(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・4</td></tr> <tr><td>14)</td><td>(報告12分+質疑3分)×4人、講評・・・5</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">1.2</p>						回数	内容	1)	オリエンテーション	2)	ノート・テイキングの技術、文献の読み方	3)	読んできた文献の内容を議論、レジュメの書き方	4)	お互いのレジュメの改善について議論する、報告テーマの決定	5)	文献データベースの活用、引用の作法、図書館案内	6)	報告のためのアウトラインを考える	7)	報告のためのアウトラインを考える(続き)	8)	口頭発表の仕方とパワーポイントで資料を作成する	9)	口頭発表の仕方とパワーポイントで資料を作成する(続き)	10)	(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・1	11)	(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・2	12)	(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・3	13)	(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・4	14)	(報告12分+質疑3分)×4人、講評・・・5
回数	内容																																			
1)	オリエンテーション																																			
2)	ノート・テイキングの技術、文献の読み方																																			
3)	読んできた文献の内容を議論、レジュメの書き方																																			
4)	お互いのレジュメの改善について議論する、報告テーマの決定																																			
5)	文献データベースの活用、引用の作法、図書館案内																																			
6)	報告のためのアウトラインを考える																																			
7)	報告のためのアウトラインを考える(続き)																																			
8)	口頭発表の仕方とパワーポイントで資料を作成する																																			
9)	口頭発表の仕方とパワーポイントで資料を作成する(続き)																																			
10)	(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・1																																			
11)	(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・2																																			
12)	(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・3																																			
13)	(報告12分+質疑3分)×5人、講評・・・4																																			
14)	(報告12分+質疑3分)×4人、講評・・・5																																			
④テキスト・参考書等	<p>テキスト：学習技術研究会(2006)『知へのステップ(改訂版)』くろしお出版。</p>																																			
⑤成績評価方法	<p>出席状況と宿題の提出状況が基本である。提出物や発表の出来に応じて加点と減点を行う。</p>																																			
⑥特記事項	<p>大学生生活で必要となる基礎的なスキルを身につけることが目標である。予習と復習は必須である。</p> <p>担当教員の連絡先は yhavashi@tmu.ac.jp である。用事があるときはメールを送り、アポイントメントをとること。</p> <p style="text-align: center;">1</p>																																			

初回授業スライド

基礎ゼミ「働くことを考える」

2010/04/XX

1. オリエンテーション
教科書・第1章

林 祐司
大学教育センター 准教授
yhayashi@tmu.ac.jp

今日の内容

- ゼミの目標と各回の目的
- ロードマップ
- 成績の付け方
- 班分け
- 自己紹介
- 宿題の確認

1

大学での勉強

- 大学生活と高校生活の違い:
 - 大学の講義では教員は話すのがメイン。要領よくメモをとらないといけない。黒板は補助的手段。
 - 学術的な本や論文をたくさん読まねばならない。
 - 自分で必要な資料を集めて、内容を整理・咀嚼し、利用する。
 - 自分が考えたことを、他人にわかってもらえるように伝える。そして意見をもらってまた考える。
- 学修スキルをみにつけなければ・・・!

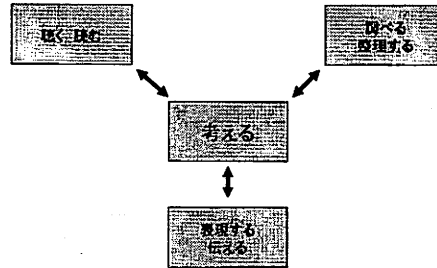
このゼミの目標と各回の目的

- 大学生活で必要となるスキル
 - 聴く・読む(2~3回)
 - 調べる・整理する(4~7回)
 - 表現する・伝える(8~14回)

- 前期終了時にはできるように。
□ いかにして? → ロードマップ

2.5

前期終了時には・・・



成績のつけ方

- インプット → プロセス → アウトカム
- インプット: これまでの蓄積や才能など
- プロセス: 努力 & プログラムの確かさ
- アウトカム: 目標への到達。

■ ※プログラムの確かさは、皆さんが学期末の授業評価アンケートで評価するもの。

成績のつけ方

- プロセス → クリアすることで「4」
 - 出席が基本
 - 欠席することに減点。遅刻は1回につき欠席1/3。
 - 20分以上の遅刻は欠席扱い。
 - 宿題(提出必須)
- アウトカム → 出来をみる: 加点・減点
 - 区切りとなる提出物(4、5、7回目)
 - 最終報告(9回目~)
- 班内で討議した結果(グループ点): 加点要素

5

班分けと自己紹介

- 4~5名でひとつの班
 - 作業は個人単位。成績評価も。
 - しかし、中間生産物の出来具合を比較、討議。
 - → グループで出た改善点について、発表してもらいます(加点要素)。
 - 助けあいましょう。
- 自己紹介の時間
 - 学部・系、大学で何を勉強したいのか、サークル、バイトなど

4

予告と宿題

- 次回はノートのとおり方と本の読み方について考える。
- 《宿題》ノートを2~3ページコピーしてくる。
- 《予習》教科書2-4章を読んでくる
- 《宿題》5回目までに報告テーマを考えておく。
 - 新聞、ニュースなどを注視。
 - 何が問題かが、一番問題である。

3

基礎ゼミ「働くことを考える」(2010) ロードマップ

回数	内容	教科書	宿題
1	オリエンテーション 演習終了後の到達点の明示/スケジュール/成績のつけ方/班分け/自己紹介	第1章	・ノートを2～3ページコピーしてくる(★) ・5回目の授業で報告のテーマ(「～の現状と問題点について」等)を決めるのでそれまでに考えておく。
2	I. 聞く・読む ノート・テイキングの技術 お互いのノートの取り方について議論→改善点 論文の読み方	第2～4章	・課題のレポートを要約せよ(A4・2枚)(●)。 池田心豪(2007)「女性の結婚・出産とM字型就業構造」労働政策研究・研修機構『仕事と生活』労働政策研究・研修機構、pp.50-65。 http://www.iil.go.in/institute/project/h15-18/07/mrs7.04.pdf ・課題レポートのレジюмеを作成して提出せよ(★)
3	課題文書の内容について議論する レジюмеの書き方を説明する		
4	班内でお互いのレジюмеの改善について議論する あがってきた問題点を報告し、全体で討議 どのようなテーマを課題とするか、考えているか確認		・レジюмеを改訂して提出せよ(★) ・報告テーマを決めてくる。
5	II. 調べる・整理する 引用の作法/文献の探し方/図書館案内(時間があれば) 自分のテーマ(「～の現状と問題点について」等)に応じた文献リストの作成	第5～7章	・報告するテーマに応じた文献リストを作り、次回提出(★)。 ・自分が選んだテーマに関連する文献を、図書館で借りたり、印刷したりし、現物を次回持ってくる(5本:文献は中身をパラと見て、関連していることを確認していないと、次回報告資料を作れない)。
6	報告のためのアウトラインを作成 収集してきた材料の整理、不足時は再び収集	第8、9章	・テーマについて、文献に書かれた事実や報告を使い、報告のためのアウトラインをレジюмеを作成する(★)。まとまった結果について、自分としてどう考えるのか、よく頭を使ってみる。
7	報告のためのアウトラインを班内で報告、改善		・報告のためのアウトラインを改訂してくる(★)
8	III. 表現する・伝える パワーポイントの資料を実際に作成する1	第11、12章	・パワーポイントを改訂してくる(提出は不要)
9	パワーポイントの資料を実際に作成する2		・報告者はスライドを印刷して提出(●)
10	(報告12分+質疑3分)×5人・・・1		〃
11	(報告12分+質疑3分)×5人・・・2		〃
12	(報告12分+質疑3分)×5人・・・3		〃
13	(報告12分+質疑3分)×5人・・・4		〃
14	(報告12分+質疑3分)×5人・・・5		〃

●は自分用と提出用の2部だけ印刷。★は自分用、グループの人数分、提出用1部が必要。ゴシック体の提出物は出来栄も評価。

教科書:学習技術研究会(2006)『知へのステップ——大学生からのスタディ・スキルズ』(改訂版)、くろしお出版。